

受変電施設改修工事でまた「1位不動」

市議会総務常任委員会会で議論

市議会総務常任委員会審査が11日に行われました。この日、私がかつとも多くの時間を割いて質問したのは、木田第一庁舎受変電施設改修工事の請負契約の締結でした。入札は4つの共同企業体が参加し、3回行われたものの、不調となり、最低価格を入れた

今後は、議案に提案されました。契約額は2億736万円です。



【アサツキ】ヒガンバナ科の球根性多年草。漢字で「浅葱」と書きます。別名は「イトネギ」「センボンネギ」など。花は薄紫色です。アカツメクサの花と似ていますが、こちらの方が色は薄い。いうまでもなく、葉も球根も食べられます。花言葉は「柔軟性」。花はいま、市内各地で咲いています。

入札者	入札金額（円）		
	第1回	第2回	第3回
ユアテック・城東電工JV	209,150,000	202,800,000	197,000,000
東光・電設JV	233,000,000	206,000,000	辞退
大和・共栄JV	238,000,000	207,000,000	辞退
田辺・水嶋JV	245,000,000	208,000,000	辞退



は、木田第一庁舎受変電施設改修工事の請負契約の締結でした。入札は4つの共同企業体が参加し、3回行われたものの、不調となり、最低価格を入れた。入札結果を見ると、今回の入札も最低入札価格を入れた業者が変更されない「1位不動」へ市民オンブズマンなどから談合の状況証拠と言われている。しかも3回目の入札で「社以外」は辞退するという事態になっていきます。契約検査課長の答弁によると、3回目が入札だけだったことは開けてみておかつたことですが、どうあれ、これでは競争になりません。

私は公正で、競争性のある入札制度への改革を求める立場から入札経過や「入札不調、不落で随意契約する場合の事務取扱要領」について質問しました。随意契約の交渉相手を1番札の業者だけでなく、2番札も入れて行っている兵庫県芦屋市の例もあげながら、より競争性の高い制度にするために、先進事例に学び、上越市の事務取扱要領を改善するよう訴えました。

創立40周年記念事業で落語や座談会

吉川中学校創立40周年記念行事が7日にあり、生徒や教職員、保護者、後援会、同窓会の人たちとともに古今亭駒子さんと川柳つくしさんの落語を楽しみました。

生徒たちはこの日まで期末テストでした。開会式では、「学習でたまった疲れを笑いで吹き飛ばしましょう」という挨拶もありました。

私が生の落語を聴くのは10年ぶりくらいでしょうか。古典落語と新作落語を聴いていっぱい笑いました。

今回は口演の後、座談会や質問コーナーもあり、これがまた楽しく為になるものでした。落語を披露するとき心がけていることは何ですかと生徒に訊かれて、出た答えは、「お客さんに話が伝わること」（駒子さん）、「落語って噺家とお客さんの会話の会話のように話すこと」（つくしさん）でした。「自分の感性を信じて、大きな目標を持って」「挫折のない人生の方が

怖い」など生き方のヒントもたくさんありました。中学生向けのイベントではありましたが、私自身も勉強になりました。下のカットは座談会の様子です。

夕方からは川柳つくしさん、古今亭駒子さん、吉川中学校校長さん、吉川中学校後援会や「夢を語る会」幹部の皆さんとともに懇親会でした。二人の落語家さんが吉川区に来られたのは今回で3回目の会では、イベントの中身やお酒のことなどをめぐって楽しい話が限りなく続きました。



はしづめ法一の
活動レポート

No.1913 2019.6.16
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら
橋爪法一 検索

春よ来い

第五六一回

過去との再会

前回の「古本屋を訪ねて」の最後に、私は、「ひよっとしたら、(古本屋の大雲健而さんと)東京大空襲で行方不明となった私の母の姉、アヤノ伯母さんとの接点が見えてくるかも知れません」と書きました。

この文章を掲載したビラを配り始めた一日目の夜、高田で会合に出ている私の携帯電話が鳴りました。電話は私が赤ちゃんの時、に乳を飲ませていただいたキエさんからでした。

「おまんが書いてくんだった本屋の健而さんの母親と正田家のMさんはね、イトコ同士だよ」

なんとということでしょう。私が活動しポートを配り始めたばかりだということに、いきなりびっくり情報が飛び込んできたのです。うれしかったですね。

すぐにも飛んでいって、確かめたかったです。ちようと議会議事開会中とあって、キエさん宅を訪問したのは二日後になりました。茶の間に上がらせてもらって、キエさんから、「なつかしいことを書いてもらって良かった」と言われました。

キエさんによると、キエさんは昭和一九年一月末ごろ、私の母の案内で正田家のMさんのところへ行ったというのです。ここで私の母が登場してくる。と自覚、驚きだったのですが、Mさん宅へは、Mさんのお連れ合いが二月にお産をされるということで、家事の手伝いをするために行ったということでした。Mさん宅へ行く前日には、当時、東京・深川に住んでいたアヤノ伯母さんの家に一泊させてもらったということもわかりました。

もう一方の当事者である大雲健而さんですが、男六人、女一人の七人キョウダイだったといえます。そのなかで健而さんは真ん中あたりだったとか。名前も一人わか

らないだけで、残りは全部覚えていていますから、たいしたものですよ。

神田神保町の大雲堂書店に旧旭村から女中奉公に行った最初の女性は、竹平出身のアキ子さん、キエさんの同級生でした。どうしてそういうことがわかるかというと、

大雲堂へアキ子さんを紹介したのはキエさんだったのです。アキ子さんが大雲堂で仕事をしていたのは終戦後のことだと思えます。大雲堂へ奉公に行った二人目はチズさん、キエさんの妹さんです。そして三人目が内山キョウウさんだったのです。

キエさんがこの大雲堂書店には「へさ行ったわけではなし、ほんの二、三回いっただけだ」そうです。それでも、健而さんやその上のキョウウダイの人の名前を覚えていました。それだけではないのです。建物や部屋の様子、それに暮らしの一面も記憶していました。

例えば、料理。大雲堂で料理されたのでしようか。キエさんはこう言っていたのです。

「黄身を乾燥させたものを水で溶いて、フライパンに油ひいて、ご飯いれて、炒めろがさね。『それ、ぼく一番好きだよ』って言われた」

キエさんは料理が得意の人ですから、こういう記憶も残ったのかも知れません。でも、卵料理を食べた大雲堂のご家族の誰かがのべたことまで頭に残っているとは、すごい記憶力だと思えます。

前回の「春よ来い」に書いた大雲健而さんの写った写真、これには健而さん以外のキョウウダイが写っていることもわかりました。今後の新たな展開が楽しみです。

戦争中から昭和二〇年代後半にかけての歴史の一こまひとこまが見えてくるようなキエさんの話、キエさん自身が過去との再会を楽しんでいるようにも見えました。

太鼓の音に惹かれて……

第11回浦川原和太鼓祭に初参加

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月5日(水)	6月12日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.047	0.047
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.050	0.067
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.040
名立分遣所	0.050	0.047

11回目を迎えた「浦川原和太鼓祭」の会場となった浦川原体育館には区内外から大勢の人たちが集まりました。

私は浦川原太鼓グループの皆さんの演奏はこれまでも何度か聴いていますが、「浦川原和太鼓祭」は初参加でした。

浦川原太鼓の音は途切れること

なく、伝わってくる感じがとても気に入っています。ベテランだけでなく、若い人の演奏も力強く、心に響いてきました。

この日は越後上越上杉武将隊のみなさんとも共演、これがまた素敵でした。どんどんどどどど、どんどんどどど、どどどどどどど。

